



☆大和市

令和6年市長年頭記者会見資料

と き 令和6年1月11日（木）
午前10時30分から
ところ 大和市役所5階 研修室

1 市長あいさつ

2 会見内容

- (1) 市政運営 いち早く取り組む3つの施策・・・・・・・・・・ 1
- (2) 令和6年度に予定する施策から・・・・・・・・・・ 3
 - ①宿泊（ショートステイ）型の産後ケアを開始
 - ②大和市における中学校部活動の地域移行について
- (3) 大谷翔平選手から大和市にグローブが寄贈されます・・・・・・・・ 4

2 (1) 市政運営 いち早く取り組む3つの施策

以下に掲げる3つの事項については、緊急性、重要性が高く、市民が安全で、安心して暮らせる大和市を目指して、いち早く取り組みを進める必要があると考えることから、今後さらに力を注いでまいりたいと考えています。

I 災害対応力の強化

去る1月1日に発生した令和6年能登半島地震を受け、自然災害はいつ起こるかわからないということを再認識し、本市においても、今後発生が想定される都心南部直下地震などの大規模な災害から市民、そしてまちを守り、被害を最小限化できるような取り組みを進めていきます。具体的には、これまで進めている住宅の耐震化などハード面の整備と併せて、災害時における民間事業者との連携をさらに進めるとともに、市の組織における災害対応力の強化を図るなど、ソフト面における施策の充実を図ります。

問い合わせ：災害対応に関すること
危機管理課 ☎046-260-5777へ

問い合わせ：住宅の耐震化などに関すること
建築指導課 ☎046-260-5425へ

II にぎわいの創出

2027年に開催される国際園芸博覧会「GREEN EXPO2027」と、その後予定されているジャパンコンテンツとジャパンテクノロジーを活用したワールドクラスの次世代型テーマパーク「(仮称) KAMISEYA PARK」は、大和市に隣接する横浜市瀬谷区で行われる世界規模の事業であり、本市にとって、にぎわいの創出による地域経済の活性化や就労機会の創出につながる取り組みなど、様々な点において好機であると捉えられます。

そのため、今後、花博や次世代型テーマパークを見据え、本市のまちづくりと合わせて積極的に仕掛けることができる取り組みを検討し、実施していくため、庁内の関係組織を横断的に連携するプロジェクトを立ち上げ、取り組んでまいります。

問い合わせ：総合政策課 ☎046-260-5304へ

Ⅲ 広域連携の推進

大和市、海老名市、座間市、綾瀬市の4市は、昨年7月20日、広域連携について首長同士が話し合う大和高座（大和・海老名・座間・綾瀬）広域連携懇談会を初めて開催し、各市に共通する課題をより良い形で解決できないか、その可能性を探るための会議を重ねてきました。去る12月2日には「消防通信指令事務の共同運用」を連携事業案とすることを決定し、現在大和市単独と3市（海老名市・座間市・綾瀬市）でそれぞれ運用している消防通信指令事務について、大和市を含めた4市間での共同運用を目指し、整備費や維持経費などの削減や災害情報の一元化による応援体制の充実を図ることで合意しました。現在、「4市におけるごみ焼却炉の将来利用」と「パートナーシップ宣誓制度の連携」についても連携事業案として調整を進めています。

今後も、大和高座のみならず、横浜市、相模原市、藤沢市、町田市といった隣接自治体や、遠隔の自治体も含め、一つの自治体では解決が難しい課題を広域で連携・協力して、互いにメリットがある、より良い形で解決できないか、模索してまいりたいと考えています。

問い合わせ：総合政策課 ☎046-260-5304へ

2 (2) 令和6年度に予定する施策から

①宿泊（ショートステイ）型の産後ケアを開始

大和市では、出産後に「赤ちゃんのお世話や授乳がうまくできないから心配」、「出産後に手伝ってくれる人がいない」、「産後の体調が心配」など、サポートが必要なお母さんと赤ちゃんを対象に産後ケアを実施しています。

生後4か月になる前日まで日帰りで利用できる「通所（デイサービス）型」や、生後1歳になる前日まで利用できる助産師による「訪問型」があり、市内外の医療機関や助産院の協力のもと行っています。

しかしながら、核家族化や地域のつながりの希薄化により、孤立感や不安感を抱く妊婦・子育て家庭が少なくないことに加えて、里帰り出産ができないなど家族や親族の支援が受けられない方も増えており、支援を必要としている妊産婦を早期に把握、支援することがとても重要となります。

そこで大和市では、母子への支援体制のさらなる充実を図るため、ショートステイ型の産後ケアを開始します。妊娠後期から申請が可能で、出産後4か月になる前日まで、「通所型」・「訪問型」と合わせて1人あたり合計7回までの利用を予定しています。

問い合わせ：すくすく子育て課 ☎046-260-5609へ

②大和市における中学校部活動の地域移行について

国は、少子化の進行や教員の負担軽減といった視点から、部活動を学校から地域に移行させ、最終的には学校教育から切り離す考え方を示しており、令和7年度末を目標として、まず休日への移行を進めるとしています。

部活動は、様々な活動内容・形態があり、本市においては、現在でも全体の7割以上を占める4200人の生徒が活動しています。この活動は、現実には、教員の献身的な支えによって維持されており、現在のところ、これを受け入れることができる地域のクラブ等は、本市も含め全国的にみてもあまりにも少なく、さらに、地域や民間事業者へと引き継がれたときに、生徒の費用負担も増加する可能性が高いと考えます。

そのため、大和市においては、生徒の視点に立ち、現職の部活動顧問の教員のうち有志の教員には、引き続き休日も含めた部活動の顧問を担ってもらいつつ、兼職兼業で、(仮称)部活動地域移行推進員として、地域移行のための検討、調整を行うなど、地域移行に際して中心的な役割を果たしてもらいたいと考えています。

問い合わせ：指導室 ☎046-260-5210へ

2 (3) 大谷翔平選手から大和市にグローブが寄贈されます

大リーグ・ドジャースの大谷翔平選手が、国内約2万校の小学校にジュニア用野球グローブ約6万個を寄贈することが発表され、大和市の小学校全19校にも寄贈されます。

大谷選手から寄贈されるのは、野球グローブ（右利き用2個、左利き用1個）で、大谷選手の「野球の普及と子どもたちの体力向上や健康促進に貢献したい」という思いには大変共感できるものであり、寄贈されるグローブを大いに活用したいと考えています。

さらに大和市では、グローブと併せて、ベースボール教材ティーボールを各小学校に1セット送ります。

ティーボールとは、野球の入門期の子どもたちのために開発され、ピッチャーがボールを投げる代わりに、ティーに乗っているボールを打つものです。ボールとバットが柔らかく、小学生や支援が必要な子どもたちにも適したものとなっています。ティーボールは、子どもたちに大変人気が高く、授業だけでなく休み時間やレクリエーションなどでも使用されています。

大谷翔平選手のグローブを使って、ティーボールを楽しみ、より多くの子どもたちがスポーツの楽しさや嬉しさを感じ、運動やスポーツの魅力に触れてほしいと考えています。

<参考画像>



ニューバランスジャパン
「ジュニア用野球グローブ」
(右利き用2個、左利き用1個)



ティーボールセット
(ティー1個、バット2本、ボール6個)

問い合わせ：指導室 ☎046-260-5210へ